

自動列車運転装置の走行試験を実施します

JR九州では、少子高齢化や人口減少が進む中で鉄道ネットワークを長期的に維持していくために、安全性を維持・向上しながら効率化を推進しています。また、将来にわたる労働人口減少の中で必要な人材を確保するために、作業の自動化や機械化を推進しています。その一環として、中期経営計画 2019-2021 の「技術革新をとらえた事業の進化」に掲げる自動運転の実現に向けて、ATS-DK をベースとした自動列車運転装置の開発に取り組んでいます。将来的には、運転士以外の係員が前頭に乗務する自動運転 (GoA2.5※) の実現を目指しています。

※GoA : Grade of Automation

1. 目的

既存の技術である ATS-DK をベースとした自動列車運転装置の開発の一環として走行試験を行い、その技術検証を行います。走行試験は前頭に運転士が乗務した状態で行います。

2. 内容

車両の制御機能 (加速・惰行・減速・定点停止等) や運転時分、乗り心地などを確認します。

3. 試験区間

香椎線 西戸崎駅～香椎駅間

4. 試験車両

819系 (DENCHA) 1編成 (2両)



5. 試験期間 (予定)

2019年12月下旬～2020年2月中旬のうち25日程度
試験は終列車後 (0時頃) から翌日4時頃までに実施します。

6. 今後の目標について

2020年中に同区間において、運転士が乗務した状態で営業列車における実証運転を目指します。